

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	6	B	180	C	4	D	1	II	
		一部計画を下回っており、このうち1項目については計画を大幅に下回っているが、概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
1	教育に関する目標を達成するための措置	A	0	B	67	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	A	0	B	10	C	0	D	0	II	県内医療を担う優れた入学者を確保するため、入試区分毎に入試結果と卒業後の進路調査・分析を行い、医学部においては、平成29年度の一般入試前期日程地域枠の募集人員を5名増(一般枠5名減)としたことは評価できる。また、大学院看護学研究科について、学生募集説明会などの積極的な取組により、定員10名に対し10名が合格したことは評価できる。
		入試区分ごとに入試結果と卒業後の進路を調査・分析し、県内医療を担う優れた人材を確保できる入学者選抜の方法について検討した。医学部において、平成29年度の一般入試前期日程地域枠の募集人員を5名増員することとした。(一般枠の募集人員を5名減員することで対応。)併せて、今年度は、先進事例として、自治医科大学に赴き入試制度に関する情報収集を行った。									
(2)	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	39	C	0	D	0	II	医学部におけるチュートリアルⅠ・Ⅱでの新しいシナリオによる授業の実施や、看護学部における県内病院や保健センターでの臨床実習の実施など、学生自らによる実践的で主体的な教育を企画実施したことは評価できる。会津医療センターにおいて、臨床実習機関として大学と連携して学生の受入体制を整備し、医学部5・6年生の臨床実習に加え、看護学部生の臨床実習を行ったことは評価できる。
		<p>学士課程において、医学部のチュートリアルⅠ、Ⅱでは、前年度に作成した新しいシナリオによる授業を実施するとともに、授業実施後には、担当教員による情報交換会を開催し、シナリオの改善を図った。看護学部においては、看護職者として習得すべき看護実践能力を獲得するための教育方法を検討するため、平成27年度にカリキュラムの見直しを行い、履修規程の改正を行った。</p> <p>また、大学院課程において、医学研究科ではMD-PhDコース履修者を対象としたアンケート結果を踏まえ、学会旅費支援について、助成取扱要綱を制定し、学会に筆頭演者として参加した学生4名に旅費等の支援を行った。看護学研究科では、専門看護師教育課程を見直し、日本看護系大学協議会に対して、「がん看護」、「精神看護」の38単位申請を行い、認定された。</p>									
(3)	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	9	C	0	D	0	II	医学教育分野別評価に対応するための新カリキュラムについて、協力病院との調整を踏まえながら4年生までの枠組みを確定し、新カリキュラムにおける臨床実習を第4学年10月から開始し72週を確保したことは評価できる。
		医学部教務委員会の新カリキュラム検討部会において、第4学年までの学年ごとの枠組みを確定し、新カリキュラムにおける臨床実習は、第4学年10月から開始し、72週を確保することとした。									
(4)	学生への支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	9	C	0	D	0	II	医学部3・4年生を対象に実施しているファカルティアドバイザー制による個人面談を、学生全員に対し実施したことは評価できる。
		医学部では担任制やファカルティアドバイザー制を実施し、看護学部では学生生活アドバイザーを配置するなど、学生が相談や質問をしやすい環境を提供した。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
2	研究に関する目標を達成するための措置	A	0	B	19	C	0	D	1	II	
		1項目については計画を大幅に下回っているが、概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	12	C	0	D	1	II	福島医薬品開発支援拠点化事業に基づく研究成果の着実な実績、それに基づく企業連携の拡大及び学内プロジェクトや論文に対する支援、基礎と臨床の橋渡しを推進し独創的なプロジェクトを創出するための学内共同研究課題への助成など、質の高い研究を支える取組を行ったことは評価できる。また、会津医療センターにおける科学研究費補助金の採択件数が目標を下回ったことについては、今後の取組を期待する。
		臨床と基礎の橋渡しを実現するための事業として新たに「戦略的学内連携研究推進事業」を立ち上げ、予算1千万円を計上し、学内募集を行った。その結果、3件を採択し、臨床と基礎の橋渡し研究の促進を図るとともに、各分野における連携に取り組んだ。									
(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	人を対象とする医学系研究に係る倫理指針の改正により、研究承認基準にモニタリング・監査の実施が義務付けられたことについて、新たな手順書作成や実施体制を整備するとともに、モニタリング・監査を担う人材を配置し知識習得に向けた研修を実施したこと、また、研究リソースの共有化と効率的活用の向上を目的に研究支援ポータルサイトを再編したことは評価できる。
		研究支援ポータルサイトに新たに平成27年度科学研究費助成事業実施課題一覧閲覧のための項目を新設するとともに、研究を開始する場合に必要な各種申請様式をワンストップで入手できるようポータルサイトを再編し、効率的活用を促進した。									
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	A	0	B	23	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	10	C	0	D	0	II	県内89病院が参加する「ふくしま病院連携ネットワーク」の総会を開催し情報共有等の機会を設けたこと、また、市町村との連携事業による住民の健康増進への取組を推進したことは評価できる。会津医療センターにおいて、健康教室や出前講座等の地域の健康増進を支援する活動を積極的に行ったことは評価できる。
		須賀川市の健康長寿推進事業に係るアドバイザーやデータベース構築事業を受託し、臨床研究イノベーションセンターが主体となって住民の健康増進のための取り組みを実施した。									
(2)	地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	10	C	0	D	0	II	地域の医師不足解消のために、へき地医療の拠点病院や地域の救急・災害・周産期・感染症等の分野を担う民間病院等への医師の派遣、特に震災等の影響を受けた相双・いわき地区への派遣を重点的に行ったことは評価できる。また、会津医療センターにおいて、へき地医療拠点センター病院として、県立南会津・宮下病院、国保診療所に対し、積極的に応援を行ったことは評価できる。
		地域の医師不足解消のため、教員を本学地域医療支援センターに配属し、へき地医療の拠点病院や公的医療機関、地域医療や救急・災害・周産期・感染症等の分野に貢献していると認められる民間病院等へ配置するなど、支援を行った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目			公立大学法人自己評価							評価委員会評価	
			計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項
(3)	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	A	0	B	3	C	0	D	0	II	地域の医療機関や企業との共同研究を推進するため、学内の研究シーズについて、積極的な情報発信やマッチング活動を行った結果、共同研究・受託研究の実績につながっていることは評価できる。
		地域企業との共同研究を推進するため、研究分野・研究者等のカテゴリー分類をしたホームページのリニューアルや、マスメディアを活用したシーズ集の広報などを行い、研究シーズを発信した。また、セミナーや展示会などにおいて企業とのマッチング活動を行い、昨年を上回る共同研究、受託研究の結果となった。									
4	国際交流に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	/
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	国際交流の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	国際学術交流協定に基づき、武漢大学教員及びマウントサイナイ医科大学学生を受入れ、研究活動を通じた交流活動や、ベラルーシ医科大学及びゴメリ医科大学の教員を招へいし災害医療セミナーを開催するなど、相互交流を深めたことは評価できる。
		マウントサイナイ医科大学の学生2名を6月に、武漢大学の教員3名を9月から3ヶ月間受け入れ、研修や各専門分野での研究活動を通して交流を深めるとともに、1月にはベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学の教員を招へいし災害医療セミナーを開催した。また、平成28年2月から約1ヶ月間、武漢大学に3名、マウントサイナイ医科大学に2名、ベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学に1名、本学学生を派遣し、相互交流を行った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
5	大学附属病院に関する目標を達成するための措置	A	6	B	64	C	4	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	附属病院に関する目標を達成するための措置	A	4	B	47	C	3	D	0	II	安全な医療環境を提供するため、院内緊急対応システムの導入やICTの介入による抗菌薬適正使用に向けた取組推進を行ったこと、看護師の特定行為研修機関の開設を決定し準備を進めていることは評価できる。人材育成の取組として、認定看護師3名の認定取得やメディカルスタッフの資格取得につなげた一方で、多職種の感染制御の有資格者について新規取得者を出せなかったことについては、引き続き取組推進を期待する。
		病院マネジメント支援システムにより診療科別の原価計算を行い、収支分析の結果を病院経営企画会議等にて報告した。また、診療科毎の収支分析に加え、疾病毎や患者毎の分析が行えるよう新たな運用を検討し、システムの設定を見直した。平成27年11月から平成28年1月にかけて実施した病院長・診療部長ヒアリングにおいては、収支分析結果や患者数推移等の情報を各診療科と共有し、入院患者数の目標を設定するなど、経営改善に向けた取り組みについて協議した。									
(2)	会津医療センターに関する目標を達成するための措置	A	2	B	17	C	1	D	0	II	会津地域における健康の維持と支援を目的に看護専門外来を開設し、専門・認定看護師等による専門的なケアを提供したこと、また、病院機能評価の認定を受け緩和ケア病棟入院料の算定を開始したことは評価できる。
		医学部5年生全員及び6年生の一部の臨床実習受入れを継続するとともに、新たに看護学部生を受け入れて臨地実習を行った。また、看護専門外来を平成27年6月に開設し、専門・認定看護師等による専門的なケアを提供する体制を整備するとともに、同6月に病院機能評価の一般病院2の認定を受け、同年8月より緩和ケア病棟入院料の算定を開始した。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
第2	東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	0	B	22	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
1	県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	データベース専門委員会において、情報管理等の専門的知見を持つ会津大学から助言を受け、県民健康調査データ管理システムについてデータベースの円滑な整備運用を図ったこと、また、平成27年12月までとされていたIAEAとの協力にかかる取り決めの延長、関係機関と連携して被災住民のこころのケアに取り組んだことは評価できる。
		県民健康調査データ管理システムについて会津大学から専門的な助言を受けてデータベースの円滑な整備運用を図るとともに、国内外の関係機関との連携を強化するなど、県民健康調査の推進に取り組んだ。									
2	復興支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	医学部5年生へのBSLに災害・放射線に関するプログラムを加え、県内外の医療人を対象とするセミナーを実施し、災害・放射線障害に対応できる人材育成を行うとともに、避難住民への健康相談を実施し、実地研修を通じた被災地貢献を行ったことは評価できる。
		本学医学部5年生へのBSLに災害・放射線に関するプログラムを加え、県内外の医療人を対象とするセミナーを実施し、災害・放射線障害に対応できる人材育成を行うとともに、避難住民への健康相談を実施し、実地研修を通じた被災地貢献を行った。									
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	10	C	0	D	0	II	ふくしま国際医療科学センターの整備について、環境動態解析センター棟及び先端臨床研究センター棟が竣工したことは評価できる。また、低線量被ばくモニター事業に係る広島大学との共同研究について延長して実施したこと、災害医療や被ばく医療に携わる多様な人材育成を目的に、長崎大学と共同で大学院「災害・被ばく医療科学共同専攻(修士課程)」を平成28年4月に開設するため体制を整備したことは評価できる。
		ふくしま国際医療科学センターの整備に係る建設工事について、平成28年1月末に環境動態解析センター棟、先端臨床研究センター棟が竣工した。									
4	復興支援の連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	II	PET-MRIやサイクロトロンを活用し、最先端の研究を実施するため、放射線医学総合研究所と機器操作面での連携を強めるとともに、核医学治療国際シンポジウムにおいて、放射線医学の拠点として国や関係大学、核医学会などオールジャパン体制のもと核医学の進展を図ることが確認されたことは評価できる。
		国内有数の機器であるPET-MRIやサイクロトロンを活用し、最先端の研究を実施できるよう、放射線医学総合研究所と機器の操作面等での連携を強めるとともに、核医学治療国際シンポジウムを開催し、本学を放射線医学の拠点とし、国や関係大学、核医学会などオールジャパンの体制のもと核医学の進展を図ることが確認された。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	0	B	55	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	14	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	12	C	0	D	0	II	理事長の方針や考えを具現化するため、法人経営室において各理事や関係者に助言を行ったことや、「男女共同参画推進行動計画」を策定し、男女共同参画を推進するための研修など具体的な取組を行ったことは評価できる。
		法人経営室が、理事長の方針や考えを具現化するため、各理事や関係者に助言を行った。平成27年度においては、ふくしま子ども・女性医療支援センター、新医療系学部設置準備室、ふたば救急総合医療支援センターの新設、及び会津医療センターの収支改善などを具現化した。									
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	年度発注見通しの公表や入札事務の分離など、入札制度見直し実行計画に掲げた各見直し項目について適切に実施した。
		年度発注見通しの公表や入札事務の分離など、入札制度見直し実行計画に掲げた各見直し項目について適切に実施した。									
2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	科研費の採択につながるよう、名誉教授による応募書類の事前審査やアドバイザーによる応募書類作成の支援を実施し、前年度を超える採択件数となったことについて評価できる。
		平成27年度新たに人を対象とする医学系研究に係る倫理指針が定められ、研究の承認基準にモニタリング・監査の実施が義務付けられたため、その受入手続等の検討を行い、新たに手順書等作成や実施体制などを整備し、外部資金獲得のための関連規程の改正に取り組んだ。									
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	施設改修に当たっては省エネによる経済性の向上を図るため、インバーター方式のエレベーターを導入したり、照明をLEDに取り替えたことは評価できる。
		施設整備の改修に当たり、インバーター方式のエレベーターを採用し、また器具交換が必要な照明は、積極的にLED器具への取替を行った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	A	0	B	13	C	0	D	0	II	
	概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。										
(1)	評価の充実に係る目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	平成29年度の大学機関別認証評価受審に向け認証評価部会を設置し、前回受審の際の検証を踏まえ、スケジュール策定や自己評価実施体制の整備を図ったことは評価できる。
	大学機関別認証評価の平成29年度受審に向けて評価室の下部組織として認証評価部会を設置し、円滑に自己評価ができるよう、前回受審の際の検証を踏まえ、スケジュール策定、担当部署の割り振りや各学部教員の役割分担を行った。										
(2)	情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	大学の教育・研究・地域貢献などの取組を常時発信するため、各講座等で管理するホームページの更新毎に大学ホームページのリンク設定を更新し、掲載情報の最新化を図ったことは評価できる。
	各講座等が管理するホームページが更新された際は随時大学ホームページのリンク設定を更新し、また、研究成果や公開講座の開催情報等、各講座等の活動状況が容易に確認できるよう、随時掲載情報の更新を行った。										

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
4	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	A	0	B	22	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果をあげた。									
(1)	法令遵守に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	研究の開始に当たり法令等を遵守させるため、研究推進戦略室で対応を審議したり、役員会決定事項の学内周知を徹底させるため、科研費新規内定者を対象とした説明会や倫理講習会を実施したことは評価できる。
		各種研究の開始に際して、研究推進戦略室において対応を審議したほか、役員会決定事項等について、各種説明会を実施し、法令遵守に向けた周知徹底に取り組んだ。									
(2)	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	東日本大震災で損壊した学生寮の再整備について、大学の自己財源の負担軽減に資するため寄付金の募集を行いながら建設工事や備品整備を完了させ、また関係規程の改正や学生の受入れに係る手続きを行い、計画どおりに平成28年4月に開寮したことは評価できる。
		平成28年3月22日に学生寮建設工事が竣工し、計画どおり4月1日から寮の運営を開始できることとなった。 また、病院内の案内のサインについて一部見直し、改修を行うとともに、エレベータ等の既設設備の更新工事を行った。									
(3)	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	大学健康管理センターによる学生の健康管理活動として、定期的な情報発信や臨床心理士の相談枠を設け、個別対応を要する学生に対しては事後フォローを行ったことは評価できる。災害対策マニュアルの配布による学生や職員の災害時対応の周知、病院における夜間を想定した避難訓練の実施などにより、災害発生時の対応手順を確認したことは評価できる。
		大学健康管理センターだよりを発行し、学生に対し健康管理情報の提供を行うとともに、メンタルヘルス対策のため、臨床心理士の学生相談枠を毎週1回設けた。 また、災害対策マニュアル等をデスクネットに掲載し、「大地震対策マニュアル（ポケット版）」を配布するとともに、託児所、看護師宿舎、病院及び学部の消防・防災訓練を行った。2月には、病院において夜間想定避難訓練を実施し、災害対策マニュアルに基づく対応手順を確認をした。									
(4)	情報通信基盤の整備・活用に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	国立情報学研究所の学術認証フェデレーション「学認」に参加するため、IdPサーバを立ち上げ、またテストフェーズに参加したことは評価できる。
		サーバ機器を導入し、IdPサーバを立ち上げた。また、併せて国立情報学研究所の学術認証フェデレーション「学認」のテストフェーズに参加した。									